

ほしの会（和歌山県）

活動地域

和歌山県のほしの会でございます。これより私たちほしの会の活動内容などについて発表させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私たちが活動しております、かつらぎ町は和歌山県の北東部で弘法大師が開山をしました、霊場高野山の麓にあり、清流紀ノ川が流れる自然豊かな町であり、また全国的な柿の産地でもあります。活動区域は主として、かつらぎ警察署東浜田警察官駐在所管内としておりまして、管内は紀ノ川の南岸沿いに東西約5キロメートル、南北に17キロメートルで、その中に約1,100世帯、4,000人が暮らしております。



団体の概要

私たちの団体の概要を説明致します。当会は昭和50年に管内の小学校で起こった学級ぐるみの非行・いじめ・校内暴力問題を契機とし、昭和51年4月に東浜田駐在所勤務員の助力を得まして、駐在所を拠点とし、少年補導員と青少年指導員の4人で発足いたしました。

当会の名称は少年補導員の「ほ」と青少年指導員の「し」の一文字ずつを取りまして、ほしとなるわけですが、あえてひらがなでほしの会と命名したのは、私たちは常々、子供は夫婦・家庭の宝であるとともに国の宝でもあると思っております。子供たちは無限の可能性を秘めて、自ら継承すべき世代へ向かって真っすぐに成長しています。

それは自己の夢だけでなく、両親、保護者や社会全体の大きな期待に応えて輝く星のようなものであります。その無数に点在する大小の星が、ふとしたことで、あえなく消えていくことのないように協力をして、その星を支え、また温かく見守っていく会にしようとの思いから、ほしの会と名付けました。

発足当初の活動は、青少年の健全育成・非行防止、少年を取り巻く悪質な環境の除去・浄化、水難事故防止等としておりましたが、その後、各種団体の方々の入会によりまして一般防犯や交通事故防止活動へと、その活動の幅を広げてまいりました。

2. 団体概要

(1) 結成は昭和51年4月

昭和50年に管内の学校で起こったいじめ問題、校内暴力を契機に、昭和51年4月、東浜田駐在所勤務員の協力を得て、警察少年補導員と青少年指導員4名で発足。

現在、会員は13人ございまして、少年補導員、青少年指導員、少年警察協力員、地域交通安全活動推進員、子供見守り隊の隊長、防犯委員、元自治区長、駐在所連絡協議会の会長、老人会連合会の副会長、警察官OBで構成されております青色防犯パトロール隊員と、それに加えて警察官駐在所勤務員がおり、青少年の非行防止と安全で安心して暮らせる地域づくりのために、立場の枠にとらわれずに、みんな一つの輪になって地域に精通した者ばかりで構成しております。

(2) 構成員は、現在13名。
平均年齢は65歳。

(3) 構成団体等

少年補導員、青少年指導員、地域交通安全推進員、子供見守り隊長、元、自治区長、防犯委員、警察官OBで結成された青色防犯パトロール隊員、少年警察協力員、老人会連合会副会長、それに駐在所勤務員。

活動の概要

活動の概要と内容について説明します。当会の活動は駐在所を活動拠点としまして、駐在所活動をバックアップ、つまり駐在所の応援団という形で各種の警察活動を展開しています。駐在さんが会員であるために、地域の事件・事故の発生状況や防犯情報などの情報交換を密にしていることから、事案発生に対する素早い立ち上がりを可能としております。その情報を基にして地域住民の中から1人も被害者を出さないように、会員の関係団体を通じまして、広範囲に連絡・広報を行っております。

青少年の非行防止対策につきましては、会員を中心に、いじめ、暴力行為、万引き、飲酒、喫煙、薬物乱用、深夜徘徊(はいかい)等の防止活動を行っております。また、公民館からの要請に応じて、少年の健全育成や非行防止に関する講演も行っております。今年も来週、かつらぎ警察署の生活安全刑事課長を講師にお招きして、最近の事件・事故に関しまして、「地域の安全は地域で守る」という演題で講演会を開催することになっております。

次に犯罪被害防止対策について話しますと、最近、全国的に世間を騒がせている振り込め詐欺や悪質商法について、住民の中でも特に高齢者の方々が被害に遭わないように、振り込め詐欺、悪質商法追放等のステッカーを独自に作成して全戸に配布し、玄関前や電話機のそばに貼ってもらっております。

それから空き巣被害の防止対策といたしまして、「空き巣にご用心」とか「不審者を見たら110番」などと記載した、これも手作りの看板を街頭に設置したり、住民にはワンライト、ツーロック運動を推進することによりまして、地区全体で防犯活動を行っております。写真は玄関前のステッカーです。そろって玄関前に貼ることで、いわゆる強引な販売員や



勧誘員が大変少なくなりました。お守りの役をしてくれるということで、大変好評でございます。電話機のそばにも、振り込め詐欺防止のために、「慌てるな、振り込む前にまず相談」と書いたステッカーを貼っていただいております。

このステッカーを私たちが貼りましてから、役場から全戸に配りたいので防犯自治会の名前で配らせてほしいと協力依頼があり、私どもが作成した原版をご利用いただきました。

これは先ほど言いました、「不審者を見たら110番」の看板を手作りしているところです。そして作成した看板を効果的な場所を選び設置しました。高野山に通じる国道480号線では、最も目につきやすい場所を選んで設置しました。これらの看板は、管内12カ所に設置しております。

反社会的行為を行う者や悪事を働く者が一番恐れるのが、他人の目であるのは言うまでもありませんが、不審者を発見した際に正しく110番通報ができるように、110番の利用方法をマニュアル化したステッカーを、各戸に配布して電話機のそばに貼ってもらっております。

次に子供の水難事故防止対策ですが、毎年夏休み期間に入る前、子供が水難事故に遭わないように野池や河川の危険箇所に、「危ない、ここで遊ぶな」などと記載した手作りの看板を設置しております。これは平成22年に産経新聞の取材を受けまして、報道されたときの記事でございますが、この他にも和歌山テレビや他の新聞社の取材を受けまして、合計4、5回は報道されております。

交通事故防止対策につきましては、子供や高齢者が事故に遭わないよう、過去に交通事故の発生した場所や見通しの悪い場所など、危険箇所を点検するとともに、車やバイクの運転手に対して注意を喚起するために、「事故防止」「注意」などと記載した、これも手作りの看板を設置しまして、子供や高齢者の交通安全対策にも取り組んでおります。

完成した水難防止の看板を野池や河川の堤防に杭を打って、付近の草刈りなどもして、子供たちの安全を願いながら取り付けます。



活動の効果と今後の課題

以上、私たちが活動してきたことを説明してまいりましたが、これらの成果について話しますと、当会が活動を開始して以来、今日までの37年間、子供の水難事故と道路への飛び出し事故は全くございません。また振り込め詐欺や悪質商法の被害についても、地域からは出ておりません。これらは全て地域住民のご協力のおかげだと思っ、感謝しております。

最後に私たちの今後の取組みについて話します。近年、変化に富んだ新しい形態の犯罪が増加し、犯罪被害に遭いやすい世の中になってまいりました。私たちは「自分の安全は自分で守る、自分の地域は自分たちで守る」を合言葉としまして、みんなの安全のために思いやりと助合いの心を大切に、住民の自主防犯意識の高揚と規範意識の醸成を図りながら、安心して暮らせる地域づくりを推進してまいります。

私たちは駐在所の応援団として、勤務員のことを親しみを込めて「駐在さん」と呼んでおります。住民が協力的な地域に來られて良かったなど駐在さんが思ってくれば、来年も、また再来年も頑張ってくれると思います。私たちは「みんなが一人のために、一人一人がみんなのために」を目指して活動していきます。最後にもう一度言わせてもらいます。「駐在さん頑張れ」、そして「駐在さんありがとう」。ご清聴、誠にありがとうございます。

質疑応答

●質問 駐在所の方と情報交換を密にされているということですが、どういう方法でされているのでしょうか？

○回答 毎月のように、駐在さんを中心にして会議をしています。例えばどこかで空き巣があったという情報を聞きますと、すぐにみんなで会議し、「よし、それだったら空き巣防止の看板作ろう」ということになります。

4. 活動の成果

活動開始以来37年間、子ども達の水難事故や道路への飛び出しによる事故の発生はありません。管内住民の振り込め詐欺被害や悪徳商法による被害もみておりません。

5. 今後の取組み

皆が安心して暮らせる地域づくりの推進。

- ・自分の安全は自分で守る
- ・地域の安全は地域で守る

これを合い言葉に、規範意識の醸成、防犯意識の醸成、人を思いやる心の醸成に頑張っていきます。

駐在所の応援団として

警察行政全般に協力し、駐在さんを応援することの積み重ねが、安心と感謝に満ち溢れた地域づくりの基礎となるのか苦心しております。

「駐在さん頑張れ！」
そして、「駐在さん、有り難う」